

グリーンサークル29号

クローズアップ 小林 幹夫
活動団体クローズアップ 多摩市民環境会議・からきだの道の会
多摩市みどりのかわら版 柚木 則夫



パッコヤナギ

～クローズアップ～グリーンボランティア講座とグリーンライブセンター 恵泉女学園大学社会園芸学科教授 小林 幹夫

多摩市グリーンボランティア講座を担当し、一本杉公園で皆さんとウメの整枝剪定作業をはじめて5年が経ちました。講座の内容は、午前中前半の時間を座学し、あとは昼を挟んでほとんど整枝剪定の実習を行います。一本のウメに2～3人で取り組んでもらうのですが、樹形の見取り方から実際に枝を切るところ、そして片付けまで、実に手際よく行われます。そのため、この2年ばかりは時間に余裕ができて、ウメの隣のカリンなどの剪定まで行えるようになりました。

毎回の講座で感じていたのは、参加している人がとてもイキイキとしていることです。そして、5年のあいだに気づいてきたことがあります。それは、皆さんがイキイキとした様子で実習に取り組んでいることの意味が私にも伝わってきたことです。つまり、皆さんは協力して取り組む作業の意義を理解されているのだと。なぜなら、それは、「しなければならぬこと」や「自分の役割を果たすこと」がたいせつなのだと実感してらっしゃるためだと分かったのです。このことは、「グリーンボランティア活動の4つの基本原則」と本学が生活園芸（人と人、自然と人とのつながりを大切にしたい教育農場での園芸教育や学外花壇での教育効果を地域貢献の実践を生かす）との共通点であることに新鮮な驚きを感じました。改めて、みどり作りの協働に関わることは、他のメンバーのために何かをやらなければならない義務や役割、すなわち「関係をつくる」作業が求められること。そして、なにより参加者の多くは長いあいだ組織で働いてきた方々であり、そうしたことはお手のものであると納得させられたのを覚えております。

一方、本学の新妻昭夫名誉教授（故人）から教えられたことなのですが、本学と森木会との具体的な接点は、多摩市グリーンボランティア講座の創設からであると聞いておりました。森木会会長の川添修氏と多摩市公園緑地課の担当者、本学の新妻昭夫名誉教授（故人）の出会いの中から、「市民協働の実践の場づくり」の構想が生まれたとのことでした。

その縁がありまして、2011年4月にリニューアルし、多摩市、多摩グリーンボランティア連絡会および恵泉女学園大学とで構成する「多摩市立グリーンライブセンター三者連携推進協議会」（以下、三者連携推進会議）の恵泉側の窓口としてかかわるようになりました。それも今年で6年が過ぎようとしています。この間、三者連携推進会議では、永続的なグリーンライフ拠点の確保および魅力向上に向けて、それぞれの特性を尊重し、三者が合意形成しながら協力体制を強化することで、一定の評価を得ることができました。さらには、取り組みの考え方を明らかにして中長期ビジョンを構築しています。

本学は、三者連携推進会議の当初より、ガーデンと温室の管理、公開講座の開催、緑化相談の役割を果たしてきました。これは本学教育農場での園芸教育を地域貢献の実践に生かそうとしたものであり、グリーンライブセンターでも、園芸を通じて自然や命、人間のあり方を学べる施設として植栽や管理の仕方を工夫し、来館者の方々が植物を美しいと感じ、心地よく過ごしていただけるように心がけています。多くの市民の方々がグリーンライブセンターでの自然とのふれあいを通して、日々の暮らしが豊かになることを願うとともに、当施設が今後とも、森木会や本学の地域貢献活動の拠点となるようさらに連携を強めていきたいと願っています。



多摩市グリーンボランティア講座中級(9月)

～活動団体クローズアップ～ 多摩市民環境会議の始まり 多摩市民環境会議 会長 清水 武志朗

「こんにちは～」、「いらっしやい」、「どうぞ～」と、子ども達はお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんと「多摩エコ・フェスタ 2018」の会場、「クイズラリー」、「工作」コーナーへと吸い込まれていきます。

2001年1/10～3/31、全8回、多摩市主催「多摩市環境学習講座」～あなたもエコ・リーダーになりませんか～

環境学習を通して、地域の環境保全活動に携わる人材育成をねらいとして、開催されました。この講座に参加した市民が「私達が住む多摩市を住みやすい町として、次世代に、より豊かな環境を残し、未来につなげよう」との思いを目的として「多摩市民環境会議」を発足させ、「地球環境部会」、「環境美化・資源化部会」、「みずとみどりの部会」とそれぞれ部会を立ち上げて活動が始まりました。この活動は「多摩市環境基本計画」を基に行政と共に協働し、具体的に「みずとみどりの環境保全活動」、「ごみの減量化・資源化活動」、「福祉や農業との連携」、「多摩の歴史から学ぶ活動」、「行政と市民との協働活動」、「環境施設等の運営参加」、「市民との環境教育への取組み」など、また環境関連の各種審議会への参加と多岐にわたり会員自らが活動し、発信してきました。

会員それぞれが生き方、暮らし方を問いながら「人や物」「人と人」とのつながりができ、その集大成として、パルテノン多摩の市民ギャラリーを会場に、環境活動団体や市内小中学校、事業者と「多摩エコ・フェスタ」（2004から隔年）を開催しました。2008年からは「映像から

環境を啓発する」アースビジョン（EARTH VISION パルテノン多摩小ホールで上映）と同時開催となり、多くの方々の関心を集め、来場者も増えて来ました（2011は3月11日午後起きた東日本大震災の状況を踏まえ中止）。発足して10年を経ると私達のそれぞれの部会等の活動も認知されて来ました。

その頃から、今迄は自分達を中心に動いて様々な活動を続けて来ましたが、「それも良いけれど」、多くの経験を生かし結びつけて来たことをさらに「底辺を拡げて、発展させよう」との声があがり、「持続可能な市民の暮らし」という当初の考えを基に、さらに多くの結び付け（人や物）をする「コーディネーター」としての動きを重視し進めて行く思いを会員相互が新たにしました。試みとして「多摩エコ・フェスタ」の運営、進行を私達（多摩市民環境会議）が主体になるのではなく、参加団体からそれぞれ実行委員を募り、運営に関わってもらう形式としました（2016年から）。これによる効果で来場者も2000名以上と盛況に終わることになりました。今年も（2018年1月20日、21日）各団体の協力により無事終了することが出来ました。

多摩エコ・フェスタのテーマ「つながろう・つなげよう、多摩のエコ」を実践継続し「次世代へバトンタッチ」をして行くのが私達の役割です。インターネット全盛の時代、それを利用しながらも、それぞれのつながりを少しずつ進めて行きたいと考えています。



多摩エコ・フェスタ 2018 スタッフ集合写真



多摩エコ・フェスタ 市民環境会議の展示

～活動団体クローズアップ～

緑地の活性化取組み紹介

からきだの道の会 新澤 勝夫

「からきだの道」開園 20 周年を迎えて

多摩市の公園緑地の一つであるからきだの道は平成9年に開園し昨年20周年を迎えました。発足7年目となる【からきだの道の会】は多摩市との協働により保全活動を続けていますが、開園20周年を機にからきだの道全体にわたるリニューアル計画を策定しました。多摩市の緑地保全については「みどりの基本計画」に総合的な計画としてまとめられていますが、個々の緑地はそれぞれの現状と本来持つべき役割や特徴などを勘案して個別に策定する必要があります。からきだの道の将来を見据え、保全のあり方を明確にした基本構想をまとめました。

からきだの道の将来ビジョン

「からきだの道の近隣に生活する人たちはもとより、訪れる人たちにもいつまでも親しまれるみどりへ！」を基本理念とし、みどりの質の向上はもちろんのこと、新たな魅力を創出し、多摩市とのこれまで以上の協働によって、「守り育てる」だけでなく「活かす」ことで大切な地域財産として次世代へと継承します。

将来ビジョンは「花とみどりの名所づくり」。具体的にはからきだの道の上層にヤマザクラ、下層にサトザクラが咲き誇り、四季を通じて楽しめるよう桜以外のいろいろな花木で彩るイメージです。

平成30年度の取組み

リニューアル計画策定後、初年度となる今年の特筆すべき取組みは次の通りです。

1. 樹名板の追加設置

からきだの道を訪れる人たちに散策を楽しんでもらえるよう、樹木の名前などを知ってもらえるよう、できるだけ多くの樹種について樹名板を製作し取り付けます。

2. 大松台小学校との交流

毎年3年生を対象に行っている「カブトムシの授業」をからきだの道の会とコラボして行います。カブトムシの幼虫を供給して学校あるいは家庭で飼育し成虫になるまで

を観察するだけでなく、カブトムシと雑木林の関係についても学べるカリキュラムを予定しています。多摩市グリーンボランティア連絡会、一本杉公園みどりの会の協力を得ながら行います。

3. 寺ノ入り湧水の整備

昔の谷戸の湧水の面影が残る「寺ノ入り湧水」に堆積あるいは浮遊している落下枝や落葉等を取り除くとともに周辺整備も図り、カルガモ等も飛来し子育てもできる水辺スポットとそして復活させます。

4. 万年堀(鉄筋コンクリート組立堀)のグリーン化

府中カントリークラブとの境界部は万年堀が多く景観的ダメージが大きいため壁面緑化を進めていますが、今年はヒメイタビカズラの育苗数を増やし緑化スピードを向上させます。

5. ホームページの開設

からきだの道をより多くの人に知ってもらうため、また開花情報やイベント情報などリアルタイムな情報発信を行うための広報ツールとしてホームページを近く開設します。

地域コミュニティとの共生

我々はからきだの道の自然環境を第一に考え保全活動を続けていますが、地域コミュニティとの共生も心掛けていきたいと思っています。竹林の保全も兼ねた「タケノコ掘り体験会」や地域の伝統行事である「さいの神(どんど焼き)」の「マユ玉団子さおづくり」等、地域密着型のイベントを継続して行っています。

最後に、開園20周年を記念して、リニューアル計画を織り込んだ「からきだの道散策ガイド」の改訂版を発行しました。多摩市立グリーンライブセンター、パルティノン多摩歴史ミュージアム、唐木田コミュニティセンター(からきだ菖蒲館)などでお配りしていますので是非ご覧になって下さい。



ヤマザクラの苗の植樹



雪害除去パトロール



タケノコ掘り体験会

多摩市みどりのかわら版

魅力ある公園づくりに向けて！
多摩市環境部公園緑地課長 柚木 則夫

多摩市民表彰受賞、誠におめでとうございます！

多摩市では、市政施行を記念して、市政の振興に寄与し、市民の福祉増進に功績があった37人の方々と1団体に対し、平成29年度多摩市市民表彰を平成29年11月1日に行いました。このなかで、永年に渡る多摩市のみどりに対するボランティア活動が評価され、多摩市グリーンボランティア連絡会事務局の赤羽誠様と多摩グリーンボランティア森木会様（団体）とが多摩市民表彰を受賞されました。

誠におめでとうございます！引き続き、良きパートナーとして、行政も一緒に汗をかき活動をサポートしてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

みどりの現状

多摩市が管理している市立公園緑地の面積は、約201haで208箇所の公園緑地があり、多摩市の面積の約9.6%を占めており、市民一人当たりの公園緑地面積は、13.54㎡（約8畳分）の広さとなります。このことは、老若男女をとわず、約8畳分のみどりを市民一人当たりがもっているということで、多摩市のみどりは非常に潤沢にあるということであり、多摩市の街の魅力、特徴の一つにもなっています。そんな豊かな多摩市のみどりですが、公園が開園後、30年～40年経過したものが多く、それらの公園施設の老朽化対策や公園の利用状況のニーズの変化にも対応した対策、「魅力ある公園づくり」が今、求められています。

魅力ある公園づくりに向けて

公園施設の老朽化対策の取り組みの一つとして、市では平成27年度から3ヶ年をかけて、「多摩市公園施設長寿命化計画」の策定に取り組んでいます。この計画は、公園施設の老

朽化の状況やライフサイクルコストなどを考慮した上で、公園施設の適正なストックマネジメントを図る計画です。公園施設の改修は、この計画に基づき、今後実施していくこととなりますが、魅力のある公園づくりに向けて、公園改修事業を進めてまいります。

現在、多摩市のみどりに関しては、多摩市グリーンボランティア連絡会様をはじめ、公園愛護会、アダプトといった皆様に多摩市のみどりのボランティアとして携わっていただいておりますが、次世代につなぐ魅力ある公園づくり・持続可能なみどりを育むため、今後ともグリーンボランティアの皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。



鶴牧西公園の田んぼ

編集後記

どんぐりころころどんぶりこ♪秋に実ったどんぐりが地面に落ち、転がって池に落ちる様子を歌にしたお馴染みの童謡です。なかなか池に落ちるどんぐりを目にすることはありませんが、地に落ちたどんぐりは皆さんもご覧になっているのではないのでしょうか。さて、地面に落ちたどんぐり、落ちたままじっとしているような気がしますが、この春には根を地面に下ろし、ひょっこり芽を出す準備をしています。（高澤 愛）



3月のどんぐり

表紙の絵

「バッコヤナギ 別名ヤマネコヤナギ」（ヤナギ科）

絵・内城 葉子

ネコヤナギは湿った所、川辺などでよく見かけますが、こちらは乾燥したところを好み丘陵で見かけます。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル29号

発行日：2018年3月20日

編集・発行責任：多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>